

# 広島果研 7号の果皮色と糖度向上は施肥改善で!

高単価の9月下旬に極早生ミカン「広島果研7号」の高品質果実を早期出荷するために有効な施肥法を開発しました。

## 新施肥法(春秋分施)の特徴

○施肥量:窒素 14kg/10a

○分施割合:

春枝発生1か月前(3月中旬)に5kg

秋根伸長期(10月中旬)に9kg

○肥料:有機配合肥料(有機率65%)



光反射シートの被覆(満開後70~140日)で品質安定!

## 新施肥法の効果(14kgの秋全量施肥区と比べて)

- 外観(果皮の着色と紅色の濃さ)が向上:13%増(61%)
- 果実糖度(Brix)が向上:1.1高(M級果で10.3)
- 優良結果母枝分布率(着色と減酸促進に適した10~20cmの春枝)が向上:10%増(41%)なります(図1)。

春秋分施肥区



果皮の着色状況(9月下旬)

秋全量施肥区

□ 短い:10cm未満    □ 適当:10~20cm  
 □ 長い:20~30cm    ■ 極長:30cm以上

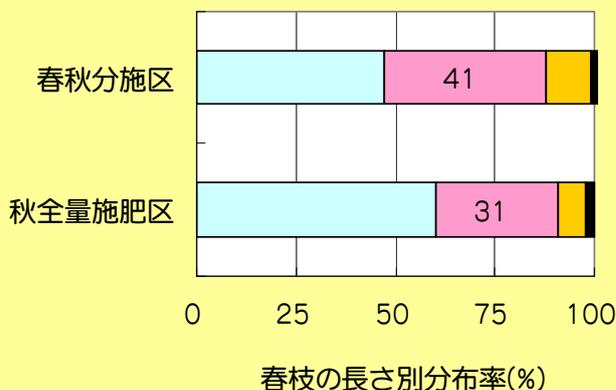


図1 新施肥法が春枝の長さ別分布に及ぼす影響(施肥量14kg/10a)  
 注)施肥4年目,2005年10月調査